

2022年9月21日

## アルバイト・パートスタッフのシフト動向調査－業種別－を初公開 シフト管理・給与計算アプリ『シフトボード』活用状況にみる労働実態 2019年1-3月～2022年4-6月時点

**シフト数（勤務回数）は多くの業種で新型コロナウイルス感染症拡大前の水準を超える  
度重なる行動制限の影響で、飲食業から他業種への移動も  
今回公開の全6業種で一人当たりの労働時間が増加傾向（労働負荷の高まり）**

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）は、シフト管理・給与計算アプリ『シフトボード』ユーザーの活用状況から、アルバイト・パートスタッフのシフト数（勤務回数）、シフト人数（スタッフ数）、および一人当たりの月間労働時間について調査しました。

今回は、「小売（コンビニ・スーパー）」「小売（アパレル・雑貨・家電など）」「飲食」「製造・建設・軽作業・警備・物流」「事務・オフィスワーク」「医療・看護・介護」の6業種における、新型コロナウイルスの感染拡大前の2019年1月から2022年6月までの推移データを発表致します。

### ■ アルバイト・パートの労働実態を「シフト」から読み解くデータを初公開



沓水 佑樹  
（くつみず ゆうき）  
『Airシフト』  
『シフトボード』  
プロダクト担当者

『シフトボード』は2014年のサービス開始以来、多くのユーザーにご利用いただいております。2022年8月末時点の累計ダウンロード数は880万です。『シフトボード』に蓄積されたシフトにまつわるアクションデータは、アルバイト・パートスタッフの労働状況を紐解き、把握する一助になり得ると考え、この度公開することと致しました。

まだ終息が見通せない新型コロナウイルス感染症が経済活動に大きな影響を与える中、働き手を取り巻く環境は変化し続けており、また業種ごとに差異も見られます。

具体的には、『シフトボード』の「シフト数（勤務回数）の推移」「シフト人数（スタッフ数）の推移」「一人当たり月間労働時間の推移」の3種類のデータを用いて業種別に比較・分析しています。これらのデータから、店舗や事業者の皆さま、働き手の皆さまが、俯瞰して現状を把握し、それぞれの活動に役立てていただければ本望です。

### [目次]

1. シフト数（勤務回数）の推移----- P.2
2. シフト人数（スタッフ数）の推移----- P.3
3. 一人当たり月間労働時間の推移----- P.4
4. 業種ごとの考察（シフト数・シフト人数・一人当たり月間労働時間の推移から）  
：プロダクト担当者 沓水からの解説----- P.5
5. まとめ----- P.8

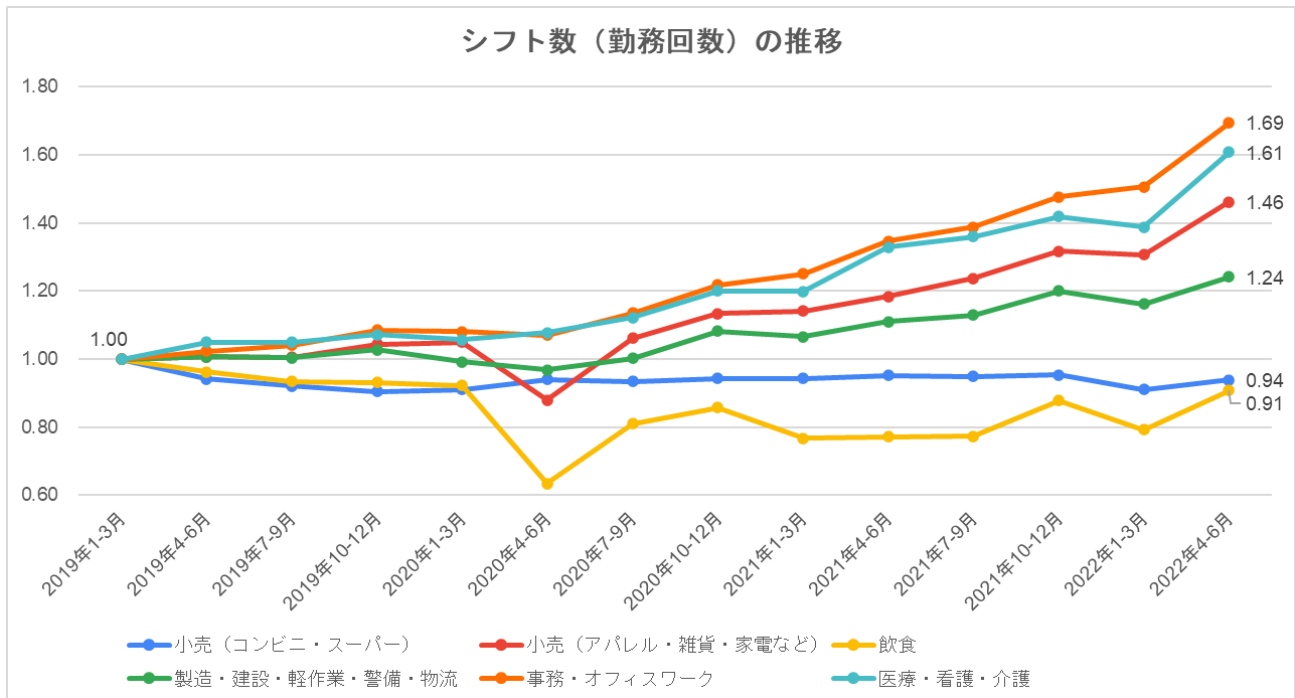
本件に関する  
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

2022年9月21日

## 1. シフト数（勤務回数）の推移（指数：2019年1-3月の合計を1.0とする）

- ◆ 新型コロナウイルス禍における行動制限の影響で、飲食業の減少が顕著
- ◆ 4業種で新型コロナウイルス感染症が拡大する前（2019年1-3月）の水準を超える
- ◆ 特に事務・オフィスワークや医療・看護・介護、小売（アパレル・雑貨・家電など）で高い労働需要あり



### ■ 2022年4-6月のシフト数（勤務回数）の推移（指数）

業種	2019年1-3月比	2022年1-3月比
小売（コンビニ・スーパー）	0.94	1.03
小売（アパレル・雑貨・家電など）	1.46	1.12
飲食	0.91	1.15
製造・建設・軽作業・警備・物流	1.24	1.07
事務・オフィスワーク	1.69	1.12
医療・看護・介護	1.61	1.16

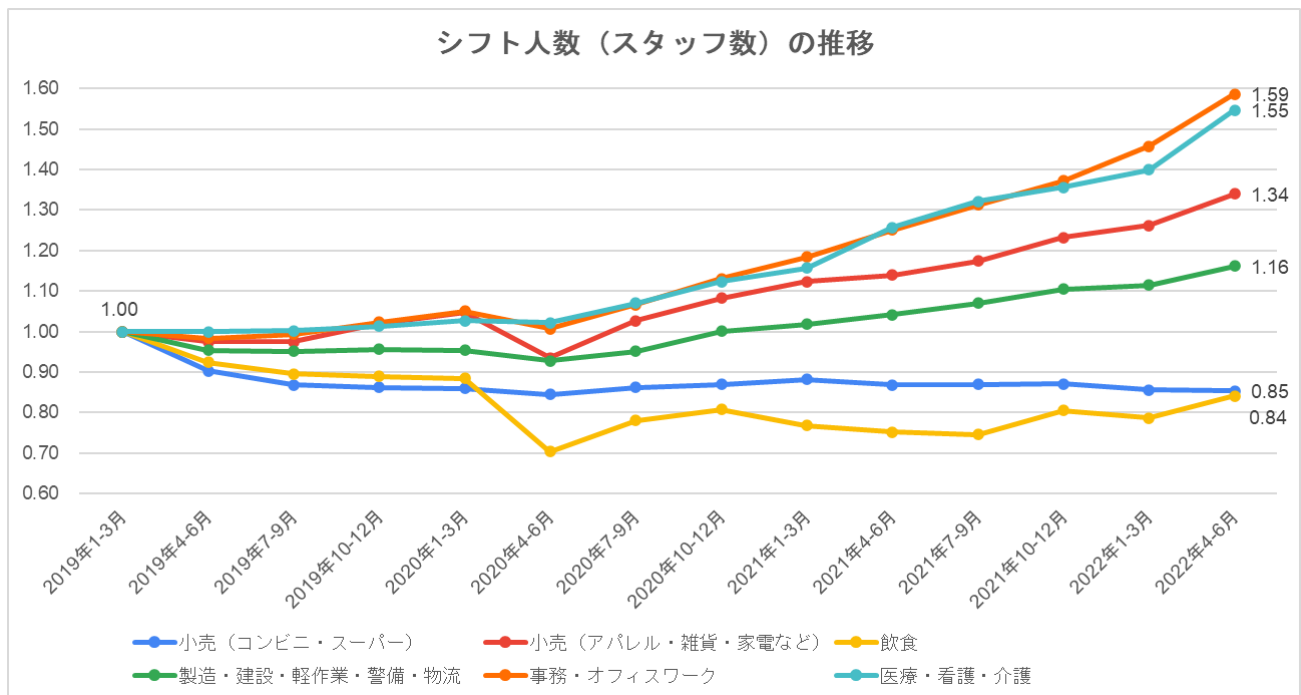
### ■ データ定義

- 『シフトボード』ユーザーのシフト数（総勤務回数）について、業種ごとに集計。2019年1-3月の合計を1.0として指数化し、四半期ごとの推移を比較した。
- 集計対象件数：約20万件  
注) 『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年6月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- 対象地域：全国

2022年9月21日

## 2. シフト人数（スタッフ数）の推移（指数：2019年1-3月の合計を1.0とする）

- ◆ 飲食業では新型コロナウイルス禍における行動制限の影響を受けた労働需要の減少に伴い、スタッフ数も減少するも、行動制限の解除を受けて足元は徐々に回復傾向
- ◆ 飲食、小売（コンビニ・スーパー）を除く業種は緩やかに上昇。飲食業から他業種へのスタッフの移動が考えられる



### ■ 2022年4-6月のシフト人数（スタッフ数）の推移（指数）

業種	2019年1-3月比	2022年1-3月比
小売（コンビニ・スーパー）	0.85	1.00
小売（アパレル・雑貨・家電など）	1.34	1.06
飲食	0.84	1.07
製造・建設・軽作業・警備・物流	1.16	1.04
事務・オフィスワーク	1.59	1.09
医療・看護・介護	1.55	1.11

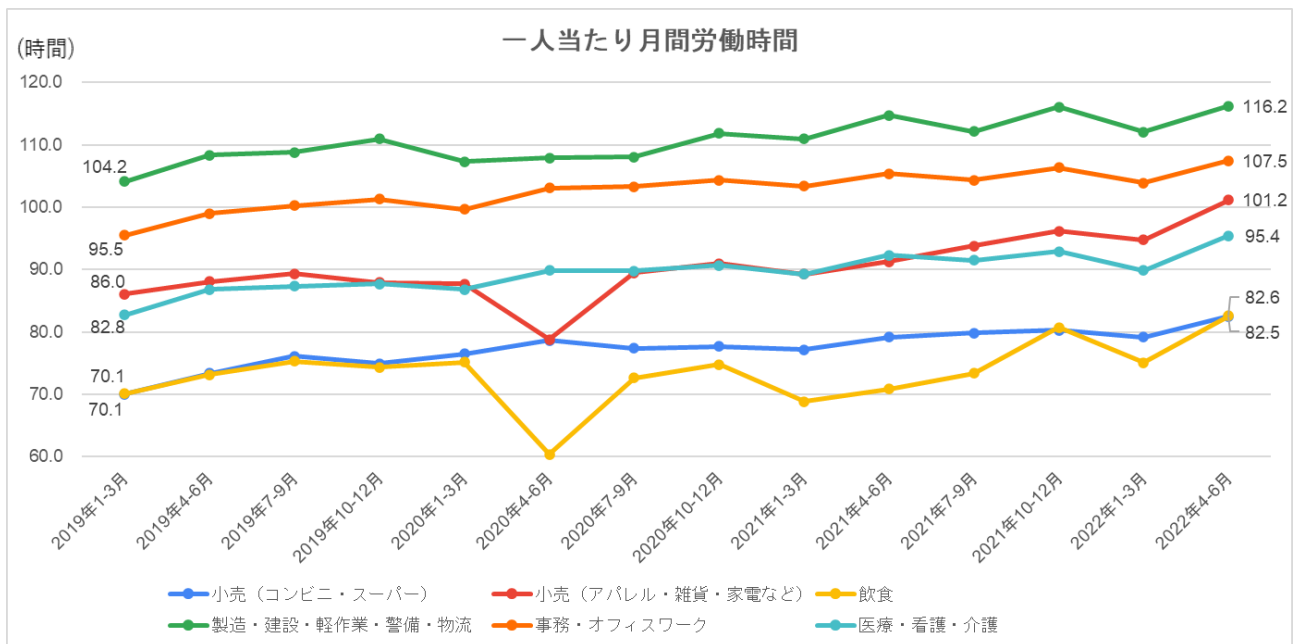
### ■ データ定義

- 『シフトボード』ユーザーが登録する勤務先のシフト人数（スタッフ数）について、業種ごとに集計。2019年1-3月の合計を1.0として指数化し、四半期ごとの推移を比較した。
- 集計対象件数：約20万件  
注）『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年6月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- 対象地域：全国

2022年9月21日

### 3. 一人当たり月間労働時間の推移

- ◆ 一回目の緊急事態宣言発出のタイミング（2020年4-5月）で飲食と小売（アパレル・雑貨・家電など）が急減
- ◆ 同時期に事務・オフィスワークと医療・看護・介護、小売（コンビニ・スーパー）は増加
- ◆ 足元では6業種すべてが増加、あらゆる業種で構造的な人出不足に拍車がかかっている模様



#### ■ 2022年4-6月の一人当たり月間労働時間の推移（単位：時間）

業種	2022年 4-6月	2019年 1-3月比増減		2022年 1-3月比増減	
		絶対値	増減率	絶対値	増減率
小売（コンビニ・スーパー）	82.5	+12.4	+17.8%	+3.3	+4.2%
小売（アパレル・雑貨・家電など）	101.2	+15.1	+17.6%	+6.4	+6.7%
飲食	82.6	+12.5	+17.8%	+7.5	+9.9%
製造・建設・軽作業・警備・物流	116.2	+12.1	+11.6%	+4.1	+3.7%
事務・オフィスワーク	107.5	+12.0	+12.5%	+3.6	+3.5%
医療・看護・介護	95.4	+12.6	+15.3%	+5.6	+6.2%

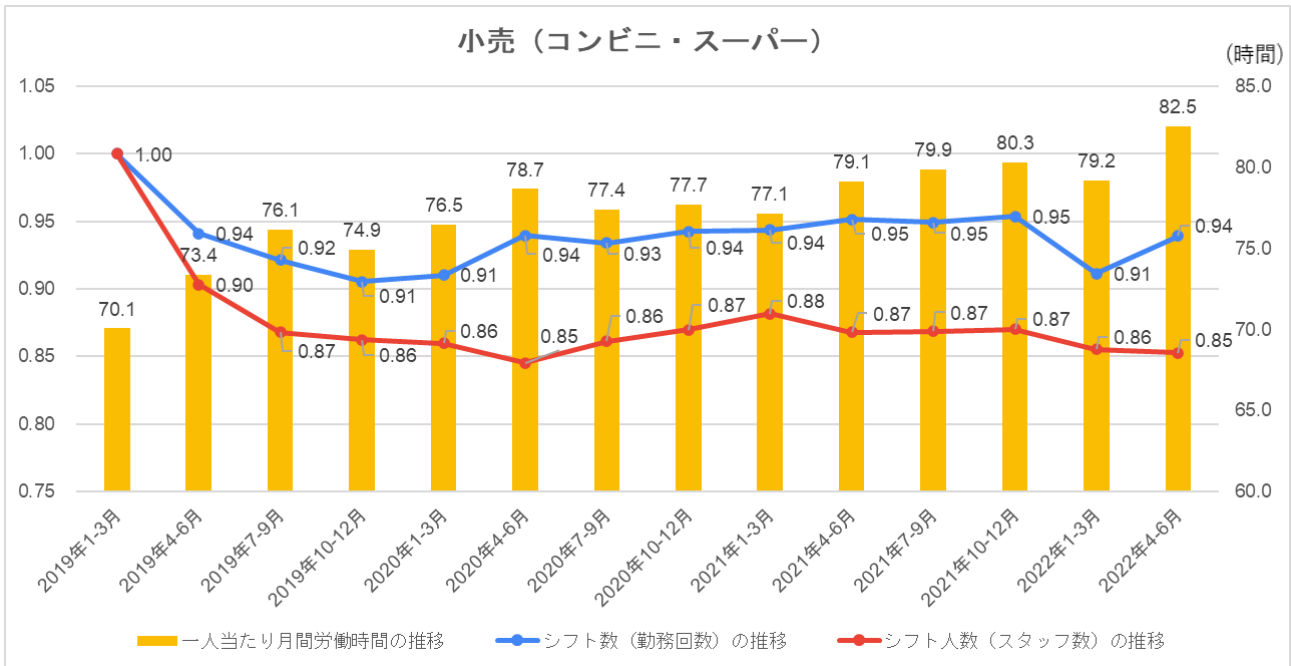
#### ■ データ定義

- 『シフトボード』ユーザー一人当たりの3カ月ごとの月間平均労働時間を算出。
- 集計対象件数：約20万件  
注）『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年6月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- 対象地域：全国

2022年9月21日

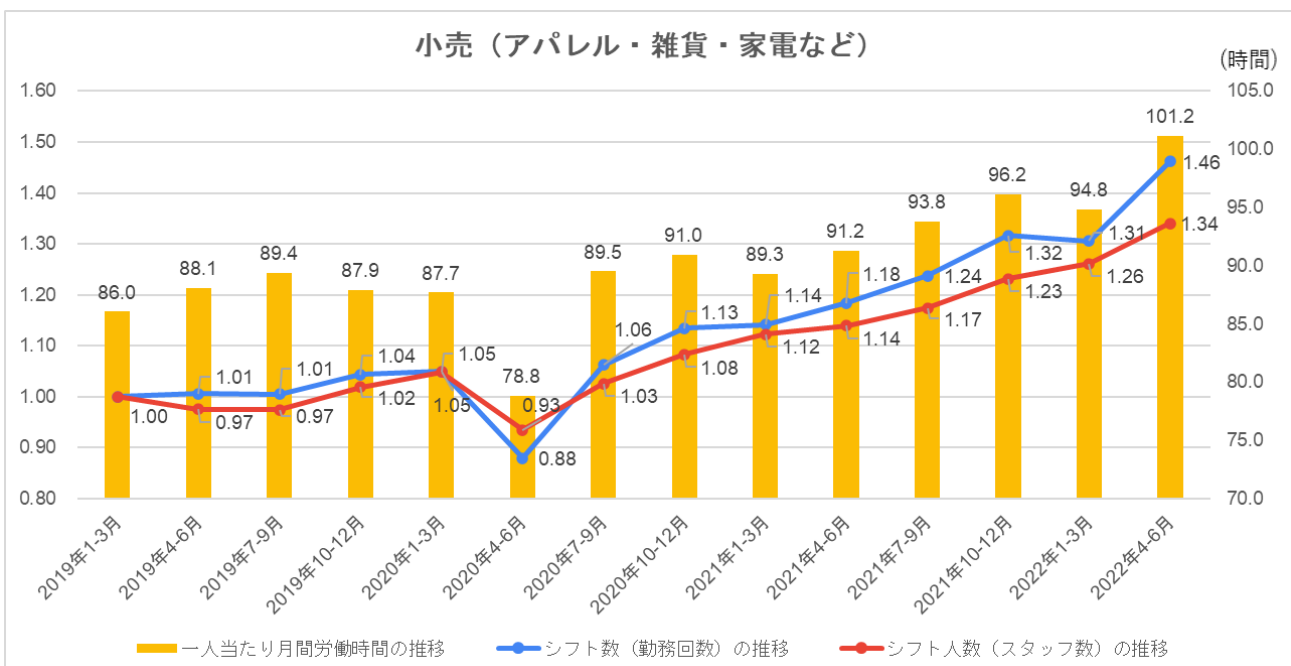
## 4. 業種ごとの考察（シフト数・シフト人数・一人当たり月間労働時間の推移から）：プロダクト担当者 沓水からの解説

### 4-1. 小売（コンビニ・スーパー）



コンビニやスーパーは、いわゆるエッセンシャルワークとして安定して稼働しています。2022年4-6月のシフト数およびシフト人数は2019年1-3月比でそれぞれ0.94と0.85で、減少傾向にありますが、これは新型コロナウイルス感染症の拡大前からの現象ということが読み取れます。一方で、一人当たり月間労働時間は2019年1-3月比で12.4時間(+17.8%)増加しており、スタッフ一人ひとりの労働負担の高まりがみられます。背景には人口減少・少子高齢化に伴う構造的な人手不足があるものと考えられます。

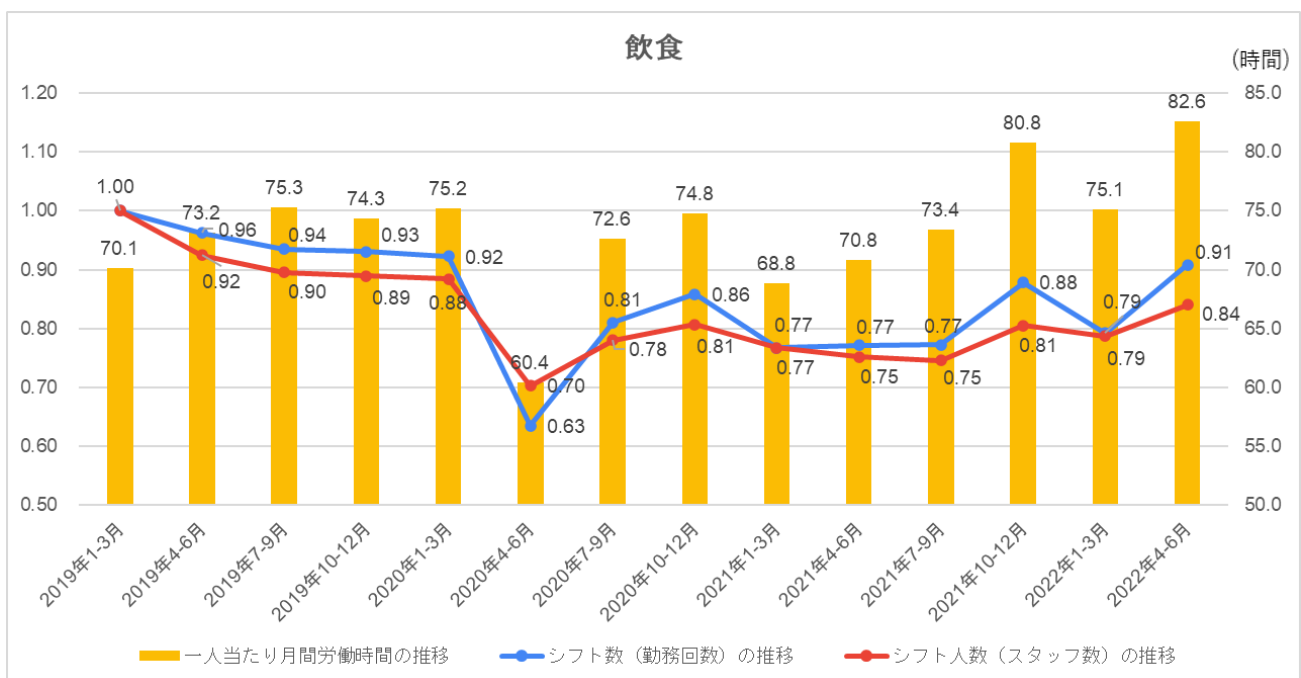
### 4-2. 小売（アパレル・雑貨・家電など）



2022年9月21日

後にご紹介する飲食業ほどではないものの行動制限の影響を受けており、シフト数とシフト人数は2020年4-6月に2019年1-3月比でそれぞれ0.88、0.93まで落ち込みました。しかし、2020年7-9月に新型コロナウイルス禍前の水準に回復してからは、増加傾向にあります。これらの増加の背景には、行動制限の影響を大きく受けた飲食業からスタッフが流入したことが考えられます。また、この業種も小売(コンビニ・スーパー)と同様に、一人当たり月間労働時間が2019年1-3月比で15.1時間(+17.6%)増加しており、構造的な人手不足の影響があるものと考えています。

## 4-3. 飲食



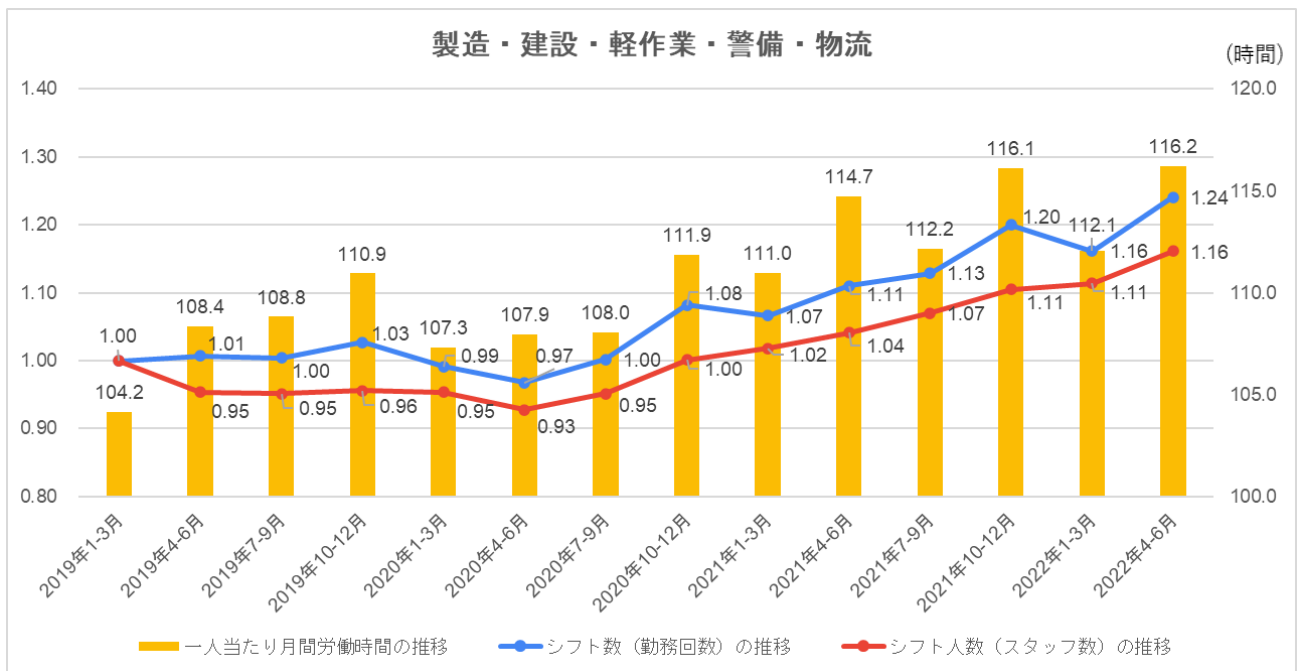
新型コロナウイルス感染症の影響を最も受けたのが飲食でしょう。一回目の緊急事態宣言が発出された2020年4-6月の時期に、シフト数は2019年1-3月比で0.63まで大きく落ち込み、その後も緊急事態宣言の発出・解除のたびに増減を繰り返してきました。足元でも、シフト数・シフト人数ともに、新型コロナウイルス禍前の水準には戻り切っていません。

2022年4-6月の数字を見ると、2019年1-3月比でシフト人数が0.84と顕著に減少している一方、一人当たり月間労働時間は12.5時間(+17.8%)増加しています。ここから、行動制限に伴う店舗の営業自粛や時短営業の影響を受けて、一時的に人員を減らしたお店が、スタッフを十分に採用できず、既存スタッフに頼って店舗運営している様子がうかがえます。

また、シフト数の減少と一人当たり月間労働時間の増加の背景としては、飲食で働くスタッフが他業種に移動したことも一因とみています。今回の調査は、2019年1月から2022年6月まで登録し続けているユーザーに限定して推移を追っています。そのため、飲食のシフト数、シフト人数が減り、その他の業種が増えている状況は、同一ユーザーが移動した可能性を示唆しています。

2022年9月21日

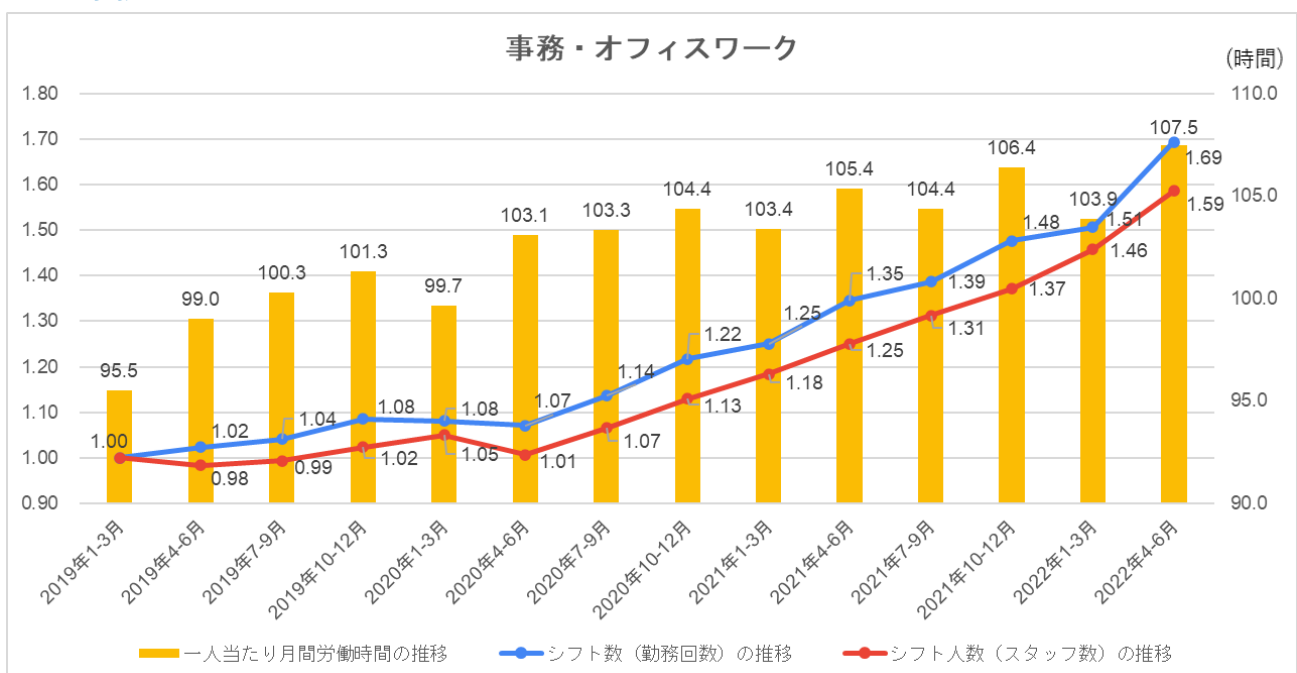
## 4-4. 製造・建設・軽作業・警備・物流



シフト数、シフト人数とともに、2022年4-6月は2019年1-3月比で、それぞれ1.24、1.16と堅調に伸びており、数字上は新型コロナウイルス感染症によるダメージは受けていないと言えます。中でも、物流は巣ごもり需要の高まりもあって宅配便の取り扱い個数が増加するなど、総じて堅調に推移したと考えられます。また、これらの業種にも、行動制限の影響を大きく受けた飲食業からスタッフが流入した可能性があります。

一人当たり月間労働時間は、2019年1-3月時点でも今回開示した6業種の中では最も長く、2022年4-6月でもその状況に変化は見られませんでした。

## 4-5. 事務・オフィスワーク

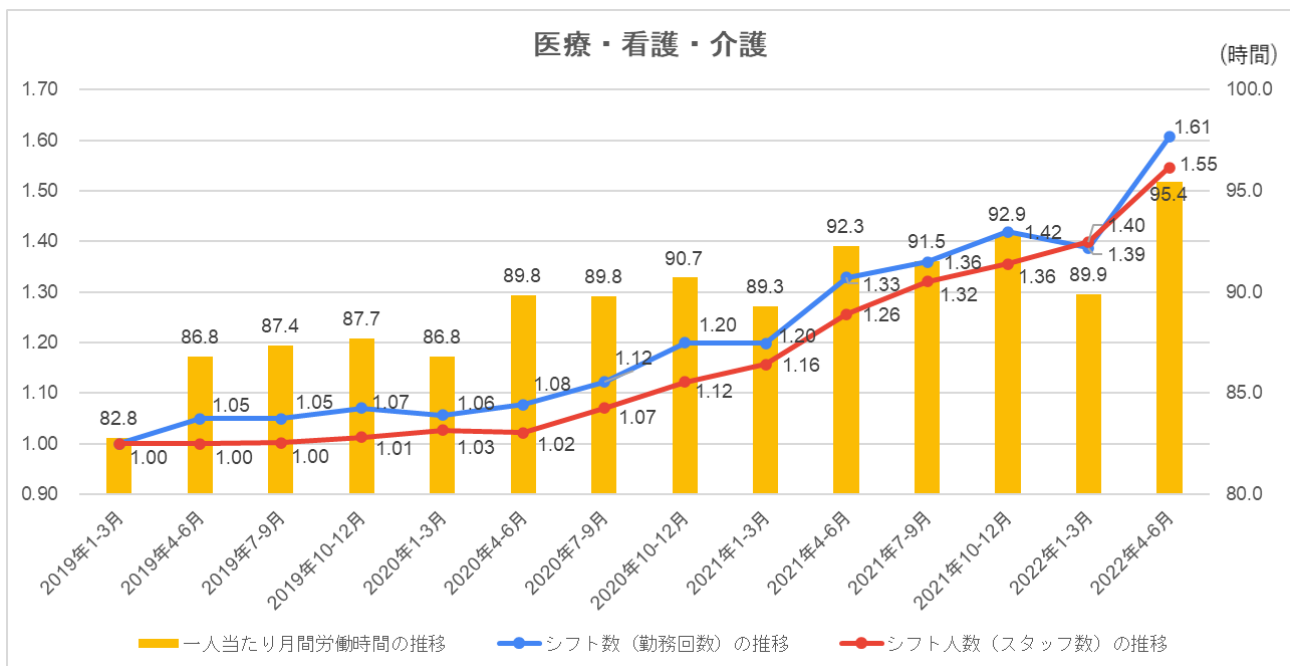


2022年9月21日

事務・オフィスワークは新型コロナウイルス禍においても労働需要が伸びています。2022年4-6月は2019年1-3月比で、シフト数が1.69、シフト人数が1.59と、どちらも6業種の中では最大の増加率となっています。一人当たり月間労働時間は、6業種の中では2番目に長く、2019年1-3月から12.0時間(+12.5%)増えています。

この業種には、コールセンター業務なども含まれており、新型コロナウイルス禍によりオンラインでの購買や業務支援などが活発化したため、需要が高まったと考えられます。従来、人手不足に苦しんでいた業種ですが、新型コロナウイルス禍による行動制限の影響を大きく受けた飲食業からスタッフが流入した可能性も考えられます。

## 4-6. 医療・看護・介護



これらの業種はエッセンシャルワークであり、新型コロナウイルス禍では業務の重要性がさらに増えています。2022年4-6月のシフト数とシフト人数は、2019年1-3月比でそれぞれ1.61と1.55となり、右肩上がり伸び続けています。慢性的な人手不足が課題となっているこれらの業種にも、行動制限の影響を大きく受けた飲食業からスタッフが流入している可能性があります。

しかし、同様に一人当たり月間労働時間も12.6時間(+15.3%)増加しており、スタッフ数が増加したにもかかわらず、人手不足が解消されず業務負荷が高い状態のようです。

## 5. まとめ

『シフトボード』ユーザーのシフト数(勤務回数)、シフト人数(スタッフ数)および一人当たり月間労働時間という3種類のデータを集計・分析することで、新型コロナウイルス感染症の拡大前から直近までの労働現場におけるさまざまな示唆を得られました。

シフト数は多くの業種で新型コロナウイルス感染症拡大前の水準を超える一方で、一人当たりの労働時間も増加傾向にあります。コロナ影響に加えて人口減少・少子高齢化による構造的な人手不足も一因となって、アルバイト・パートスタッフの労働負荷が高まっているものと考えられます。また、度重なる行動制限の影響で、飲食業から他業種への移動の動きがみられ、行動制限のない足元においても飲食業にスタ



2022年9月21日

ップが戻り切っていない状況も明らかになりました。

今回開示したデータの今後の推移は、定期的かつタイムリーに発信していく予定です。『Air シフト』、『シフトボード』では、今後もさまざまな視点・切り口から分析したデータと考察をお届けしてまいります。

## ■ Air シフト／シフトボードについて

『Air シフト』は、やりとりも作成もラクになるシフト管理サービスです。シフト表と一体になったチャットを使ってスタッフとやりとりができるので、シフトの作成と管理はもちろん、急な調整や連絡などもこれひとつで完結します。2018年4月にサービスの提供を開始し、飲食、小売、サービスなどの幅広い業種で活用が進んでいます。

『Air シフト』さえあれば、スタッフの希望はシフト表に自動反映、書き写しの手間やミスがなくなります。急な出勤依頼や変更調整も、シフト表を見ながらチャットで可能、シフト表にも同時に反映されます。導入したお店からは、「今まで3時間以上かかっていたシフト作成が30分程度になった」「辛かったシフト管理が楽しくなった」「スタッフの定着率が向上した」などの声を頂いています。

さらに、スタッフ用シフト管理アプリ『シフトボード』(2022年8月末時点で累計880万ダウンロード)と連携することで、スタッフはいつでもどこでもシフトの提出、確認、連絡が可能。店長だけでなく働くスタッフにも嬉しいサービスです。

私たちは、事業を営むみなさまの「思い描く事業運営や自分らしいお店づくり」を、これからも支援し続けます。

## リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>